



にしなふみひで
仁科文秀議員

笠岡市は「安心して子どもを産み育てられる」42・4%

議員 令和2年度市民意識調査では、安心して子どもを産み育てられると感じる市民の割合が半数に届いていない。なぜだと考えるか。

市長 様々な子育て支援策を実施しているが、安心して産み育てられると感じる市民の割合が半数に届かない結果や出生数の減少に歯止めがかからない状況に鑑み、より一層市民の声に耳を傾け、市のイメージアップを図り、子育てに関する満足度向上に繋げたい。

議員 子育て世代の転入が2年連続で関西第1位の明石市は、暮らす、育てるに特化した施策を打っている。明石市は住みやすいという市民の割合が91・2%で、予算の25%を子育て関連に充てている。本市は今年度約13・5%である。



今後、子育て予算の配分比率を高め、将来の笠岡を担う若い人たちの満足度を上げていただきたい。

城見小学校は分離型でよいのか

議員 小中一貫校の説明会で、市長が「城見小学校は分離型でもよい。」と発言した真意は何か。また、教育委員会の考えをたずねる。

市長 金浦中学校周辺の地盤が低い等の不安から過半数の保護者が分離型一貫校を望まれるのであれば、城見小学校は分離型でもよいとお伝えした。

教育部長 皆様のご理解をいただけるよう、まずはじっくり説明していきたい。

教育長 一体型の中中一貫校がなければ必要なのかをしっかりと伝え、皆様に判断いただきたい。



もりおか さとこ
森岡聡子議員

地域づくりにおける本市の10年後について問う

議員 10年後には本市を担う年齢である中学生からアンケートをとり、政策に生かす考えはないか。

市長 来年度実施予定の市民意識調査の中で、中学生の思いを調査分析する。

議員 これからまちづくりを担う世代と、現在担っている世代がまちづくりに関する年代記を作成する「笠岡クロニクル」というワークショップを今後どう生かすのか。

政策部長 総合計画を作成する中で取り組んだものであり、高校生や、若者の視点も基本構想の施策に入っている。後期計画の4年間も目指す方向に進むよう取り組む。

議員 入学者の全国募集を行って



いる笠岡工業高等学校と笠岡商業高等学校への本市の支援策は。

市長 東京思民の会・近畿思民の会に所属されている卒業生の協力などでPRを行う。また、笠岡教育DMOと連携し、支援を続ける。

安心・安全対策について問う

議員 通学路の対応についてたずねる。①小学校の通学路の危険箇所数と対応状況 ②中学校の通学路の対策 ③通園、通学時の事故の対応 ④見守りボランティアが事故の被害者となった場合の対応

市長 ①調査では82件の報告があった。それぞれの所管で安全対策を検討し対応の予定。②通学路危険箇所情報は中学校とも共有する。③交通事故の場合は加害者からの賠償を受ける。④市民活動総合補償保険から給付を受ける。